

これで御挨拶を終ることにいたします。

從野 静江

先生からいたゞきましたテ
プレーコーダーの先生のお声を國
富先生におきかせ申し上げ、大
変およろこびになりました。國
富先生からこんどは先生のお声
の次へ録音していたゞきまして
倉橋先生のお耳にも入れますこ
とを楽しみにいたしておりました
のに、それも出来ぬ間に國富
先生は御逝去遊ばしてしまいま
した。

生のお宅をたずねましておきか
せいたしました時のおよろこび
のお顔が目にとつて居りま
す。あの時は原稿でもつくつて
十五分だけ話せるようにしてお
かないと、何にもなしでは私の
話ほどれけなぐくなるかわか
らないからなあと元氣にお笑い
になりました先生。今日は録音
に來いと電話がかゝるか、明日
ははかゝるか、毎日心まことに
しておりましたのが、もう永久

にだめになつてしまいました。
同封のお写真をいたゞきに奥様
をおたずねいたしましたして、あの
時お声をいたゞいておけばよか
つたと二人で残念がりましたこ
とでございませう。先生からのお
ことずてを奥様によく〜お伝
え申上げておきました。

おまわがいや誤字があるかもわ
かりません。乱筆でおよみとり
にくいところもあるかと存じま
すが御判読下さいませようお願
い申上げます。
一ときも早くお手もとへといき
ますようにといそぎましてなれ
ない原稿用紙を使うことをさけ
ましたことをお許し下さいませ。
——後略——

(岡山大学附屬幼稚園主任)

國富先生と倉橋先生

坂元 彦太郎

十一月十八日の午前のこと、ある紳士が岡山市の一角に住んでお

られる國富友次郎氏の病床を訪れたのでした、このことは大げさに

いえば。日本の幼児教育界にとっては、一つの歴史的な出来ごとである——と私はいいたいのです。国富先生は皆様の御存じのように岡山市の市長などいらして、今は老後を静かにおくらしになっている岡山の大先輩ですが、先生の市政や学校行政などについての功績はともかくとして、私たち、教育、ことに幼児の教育に関心をもっている者にとっては、忘れることのできない幼児教育界の大先輩であったのです。たしか明治三十三年のことと承知して、いままが、先生が深抵小学校の校長をいらしたときに、その当時幼稚園の先生方の資質が不十分であり、その施設などが貧困であるのに対して、吉備保育会という団体を組織され、大いに活動されたのであつて、戦争前の岡山の保育界が盛であつたことの大きなもとをおつくりになつたといつてもいいのです。なお、四国中国九州の保育界に、あるいは関西の保育界にいろいろな活動をなさつた先生は、いわば幼児保育のおぢいさん。と申上げるような位置にあつたのです。この度、先生が病床におつきになつたことをもれ聞いた方々はあちこちからお見舞いのことばが寄せられていると、聞いております。

所で、十一月十八日、先生の病床をお見舞いになつた紳士というのは、実は、倉橋惣三先生の御長男の正雄さんであつたのです。たしか、十月ごろ私が正雄氏にお目にかかつたときに、国富先生の御病状があつたことをお話ししたら、それを惣三先生がお聞きになつて是非お見舞いにいきたい、といひだされた模様です。しかし惣三先生も相当なお年だし、からだを無理をしてはならないと固く奥様にたしなめられていられる時なので、御長男の正雄さんに自分の代りに国富先生の所について、ねんごろにお見舞いを申上げてくれ、

とお命じになつて、正雄さんの岡山への西下となつたわけです。所が、この幼稚園の父として尊敬せられている倉橋先生が、奇縁といおうか、実は幼少のときに岡山に住んでいらして、たしか尋常科を旭東、高等科を内山下に学ばれたのであつて、先生自身にも岡山がなつかしいものであるようです。

その秋晴れの朝、正雄さんが国富先生の支関で、先生の奥様に、父君に代つてお見舞いを申上げられるのを、病床の国富先生は耳さとも聞きとめられまして、是非お目にかかりたいとて病床にお招き入れになつたようです。国富先生は九月に脳いっ血でお倒れになり、それ以来面会謝絶で御療養になつていたので、倉橋先生ときいて是非会いたい、といひ出されたわけです。正雄さんは、五分間ほど、お見舞いを申上げたり、惣三先生の近況をお話しになつたり、病床におられたようですが、口の不自由な国富先生は、かすかに、「ありがとうございます」とおっしゃつて、じつと涙ぐんでいらしたそうです。

所で、話がさかのぼりますが、今年の初夏のころ、岡山の保育界の方々が、是非倉橋先生にきていただけてお話ができたい、もしできなければ録音でもいいから、もらつてきてもらいたいという御希望で、私の中つぎをたのまれたわけです。所が、先生の御長男の正雄さんは、(いま、私のこの話を録音している機械をつくつている)このごろ繁昌している録音器会社の重役で活躍しておられるので、その方面のつきあいでも私は前から懇意にしていたいで居るのを幸ひ、御尊父におねがいして岡山へのお話をお手のものの録音していただきその録音テープを寄贈してもらつたのです。その

テープの中でも、倉橋先生は国富先生の徳をたたえておられますが、岡山の人たちは倉橋先生のおことばを聞いて心から喜んだものです。それで次ぎに正雄さんにお会いしたときにそのお礼を申し述べるかたわら、国富先生の御病氣のことを惣三先生にお伝えしたわけなのです。

なお、岡山の人たちは、倉橋先生の録音テープに余りがありますので、そこに国富先生のおことばを録音し、そのテープを岡山の、いな、日本の幼児教育界の貴重な記念品として残しておこうと企だてられたのですが、残念なことには、国富先生が病氣になられま

國富友次郎先生を悼む

岡

秀

岡山県幼児教育の慈父と仰がれ、私学の明星と称せられた国富友次郎先生は昭和二十八年十二月三日遂に八十三才の御高齡をもって他界されました。今回先生の計に接し、教育に従事する私共の立場から、先生への追慕の言葉を述べさせて戴きます。

御生前の先生に接しまして、最も強く印象されますことは何といつても、先生の高潔な御仁徳であり、その御人格にふさわしい教育功労者としての御姿であります。幼児教育なら岡山へと言われた隆盛の蔭に、我國富友次郎先生の御尽力を忘れる事は出来ません。明

して、いまだにそれが果されないのです。われわれは一刻も早く国富先生の御恢復を心からいのり、あわせて、このテープを完成したいという保育界の人々の願いもかなえられる機運がきますことをいのっているものです。

岡山の一角で人知れず、幼稚園のお父さんの長子が、幼稚園のおぢいさんをお見舞い申上げている、世にも美しい光景を、皆さんもおもいうかべて見て下さい……………。

——十一月二十一日「ラジオ山陽」朝の随想として放送——
(岡山大学教育学部長)

治十九年創始された岡山の幼稚園に対し、晴天のへきれきといましよりか明治三十年に至って幼稚園廃止の論が起りました。其の時各議員の家庭を戸別に訪問され、じゅん／＼と幼児教育の必要を説き、遂に存続させ今日の発展の素地を作られたのが国富先生でありました。ここに既に先生の幼児教育に対する遠眼と、献身的な熱意を伺い知る事が出来るのであります。明治三十三年先生は吉備保育会を創設せられ、保育の振興と共に保育の研究修養につとめられました。此の御創業は広く社会の渴仰にこたえたものでありまして、